



令和5年8月17日

大竹市教育委員会  
教育長 小西 啓二 様

大竹市教科用図書選定委員会  
会長 真鍋 和 聡

大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について  
(答申)

令和5年5月24日付けで諮問された事項について、別紙のとおり答申  
します。

○大竹市立小学校用教科用図書採択のための調査研究について



**大竹市立小学校用教科用図書採択のための  
調査研究について（答申）**

**大竹市教科用図書選定委員会  
令和5年8月17日**

## 令和6年度使用教科用図書調査研究の観点について

### 1. 教科用図書調査研究の観点

#### (1) 基礎・基本の定着

教科の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で、内容の精選及び創意工夫がなされているか。

#### (2) 主体的に学習に取り組む工夫

問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れ、児童生徒の興味関心を生かし、自ら学び、自ら考える力の育成を図る工夫がなされているか。

#### (3) 内容の構成・配列・分量

学習指導を効果的にすすめる上で、適切な内容の構成・配列・分量となっているか。

#### (4) 内容の表現・表記

さし絵・地図・図表などの資料やQRコードのアクセスによる動画や音声などのデジタル教材が有効に使われるよう配慮されているか。

#### (5) 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の充実や、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整えることに配慮されているか。

#### 《参 考》

小学校教科用図書の種目

|     |
|-----|
| 全種目 |
|-----|

### 2. 調査研究・報告にあたっての留意点

- (1) 全発行者の教科用図書について調査研究し、報告する。
- (2) 1発行者の教科用図書について、必ず複数の調査員で調査研究をする。
- (3) 教科用図書調査研究の観点に基づく各教科・各種目別の具体的な調査研究の視点については、各調査員（会）において定める。
- (4) 報告書及び要約の作成については、発行者の長所だけでなく、課題と思われる点についても報告すること。
- (5) 英語においては、紙の教科書に加え、学習者用デジタル教科書について調査研究し、報告する。

大竹市教科用図書選定委員会答申整理表

※「発行者」の欄は、教科書目録により略称を記入。

| 種目 | 発行者 | 選定委員会意見（要約）   |
|----|-----|---|
| 国語 | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の初めのページに「学習の流れ（見通す、取り組む、ふり返る）が示されていて、学習の見通しをもてる。</li> <li>・教材の初めのページの二次元コードで関連する既習の学習内容も示されており、既習事項の活用を意識できる。</li> <li>・学習指導要領における「第3学年及び第4学年の内容の第3学年で学習するローマ字の読み書き」に関して、第3学年で2回、第4学年で1回扱われており、タブレット端末の活用に関しても、「キーボードで入力してみよう」（二次元コード）として3・4学年で複数回学習できるようになっている。</li> <li>・第6学年では、巻頭で紙のノートの作り方と共にデジタルノートの作り方も掲載されており、二次元コードで実際に使うことができる。</li> <li>・第1学年の促音、長音、拗音の学習ではMIM（多層指導モデル）を取り入れ、音と文字の関係を体感的に捉えるようするなど、入門期のひらがなの指導がていねいになされている。</li> <li>・物語文では、「なぜ」の問いで事実を基に解釈させる発問、登場人物の変化を問う発問など、読解力を培う発問も示されている。</li> </ul> |
| 書写 | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毛筆では、筆の中に顔が描かれているイラストによって、穂先の向きを意識して書くことができるように工夫している。</li> <li>・毛筆の点画の種類が第3～6学年の巻頭に掲載されている。「とん」「すう」「びたっ」という共通した擬態語で書き方が示され、毛筆の運筆が丁寧に指導されている。</li> <li>・左利きの鉛筆の持ち方が大きな写真で示されている。（第1・2学年）</li> <li>・毛筆の用具の置き方、準備、片づけが見開き2ページで第3～6学年の巻頭に示されている。</li> <li>・「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」「ふり返ろう」のマークで学習活動の流れが明確に示されており、「書写のかぎ」を生かして次の学習活動に入れるようにしている。</li> <li>・巻末の「学習した漢字」全てに読み仮名が付いている。</li> <li>・第3学年の「点画の名前」で「横、たて、点、おれ、はらい、曲がり、反り」の書き方が毛筆・硬筆の両方で示してあり、書写の時間全体で活用できる。</li> </ul>  |

| 種目  | 発行者 | 選定委員会意見（要約）  |
|-----|-----|--|
| 社 会 | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の初めの「つかむ」（つかむ、調べる、まとめる サイクル）で、学習問題作りのために事実としての資料などが複数掲載されており、問いが児童から生まれるように工夫されている。</li> <li>・第5学年で「上・下」、第6学年で「政治・国際編」と「歴史編」に分冊され、運びやすく使いやすい。</li> <li>・「なぜ」の問いで推測し、資料などで調べて検証する科学的探究の学習方法を取り入れている。</li> <li>・産業学習では、利潤追求の視点で社会の仕組みを学習させるように問いを工夫した学習過程となっている。</li> <li>・第3学年スーパーマーケットの店内の様子を図で、ゴシック体ではっきりと売るものの名称が示され、売るものの絵もはっきりと描かれている。児童目線でのていねいな資料提示がされており、学習課題を生み出しやすい。</li> <li>・学習問題が示され、それを解決するための下位の問いが構造的に示されている。</li> <li>・単元末の「まとめる」では、単元初めの学習問題を確認した上で、キーワードをもとに思考させた上でまとめるつくりとなっている。</li> </ul> |
| 地 図 | 帝国  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界と地球儀」では、地球儀の使い方を写真と文字だけでの説明ではなく、二次元コードによる動画を用いて立体的に理解できるように工夫されている。（距離・面積・方位の調べ方を掲載）</li> <li>・第3学年から使用しやすいように、「地図の世界へようこそ」「地図の約束」など、大きな文字や大きな図で分かりやすく作られている。</li> <li>・P. 21 からの日本の地方別地図は、「広く見わたす地図」として地図入門期にも分かりやすく、文字なども大きく作られている。P. 33 から詳しい地図が表示されている。</li> <li>・全体的に色合いが淡く、とても見やすい。色使いや都道府県、国の区分の線、海の色も分かりやすい。目的に応じて色使いが変えてある。</li> <li>・さくいんは、色分けされ、分かりやすい。</li> <li>・資料の雨温図では、降水量の一番多い月は色の濃い棒グラフで示しており、気温は最高と最低の月を数値でも示している。</li> </ul>   |

| 種 目 | 発行者 | 選定委員会意見（要約）   |
|-----|-----|---|
| 算 数 | 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な見方・考え方の育成を重視したつくりとなっており、マーカで手がかりが示してある。</li> <li>・ 関係図の活用が児童の思考を助けている。（他者は線分図のみ）<br/>（例）第6学年 P. 43～ 分数×分数 P. 56～ 分数÷分数</li> <li>・ 第1学年の数の構成が5といくつで表されており、分かりやすい。（算数セットもこの形となっている。他者は10のかたまりで表している。）</li> <li>・ 二次元コードには、何の二次元コードか文字で記載しているので、分かりやすい。</li> <li>・ 表や図などの書き込みスペースが大きく、使いやすい。</li> <li>・ 問題解決のためのヒントなどが詳しすぎず、教員の裁量に任せられる点が多い。</li> <li>・ 事例及び図が、児童が思考しやすいものが示してある。<br/>（例）第6学年「分数÷分数」P. 57 <math>3/5 \div 1/3</math><br/>計算のしかたの説明及び計算の仕方の図が複雑ではなく分かりやすい。</li> <li>・ スタートブックが導入期の1学年にとって、分かりやすいつくりになっている。「わくわくスタート」の見開きで、これからの算数の学習への見通しがもてるようになっている。</li> </ul> |
| 理 科 | 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実験器具の使い方が、巻末ではなく使用する単元のページにあるので、すぐに確認することができる。</li> <li>・ 実験器具の使い方や観察の手順が具体的に分かりやすく示されている。</li> <li>・ どの単元にも最後に「くらしとリンク」というテーマで学習したことが生活に生かされている場面が出てくるので、発展的に考えることができるようになっている。</li> <li>・ 巻末に「かく」「伝える」「しせつの活用」「理科につながる算数のまど」「ものづくり広場」「理科の見方・考え方」という資料がある。「理科の見方・考え方」では、問題解決のための見方・考え方を振り返るようになっている。さらに漫画を通して理科の見方・考え方が日常生活に役立つ例を確認できる。</li> <li>・ 「問題をつかもう」では、見つけた「不思議」について、児童の話合いから問題を見つけることができるようになっており、ポイントとなる言葉にはマーカが引かれている。</li> <li>・ 日常生活に関連する科学的事象について「はじめに考えよう」として示し、学習内容を使って単元末に説明させるつくりになっている。科学的見方・考え方が習得及び活用できたか評価もできる。</li> </ul>                                |

| 種目   | 発行者 | 選定委員会意見（要約）   |
|------|-----|---|
| 生活   | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かつどうべんりてちょう」が本体に組み込まれ、なくさない工夫がなされており、見開き2ページで項目ごとに分かりやすく整理されている。</li> <li>・「つながるこくご」「つながるさんすう」として国語や算数と関連付けた表示があり、生活科の学習と他教科との関連を意識した指導ができるようになっている。</li> <li>・「おもちゃ図鑑」で基本的なおもちゃの作り方6種類を紹介し、さらに児童が何かに見立てて、工夫して創作できるような余地を残した例示がされている。</li> <li>・二次元コードでは、クイズや植物図鑑、花の残し方、秋植えの植物の画像や植物の世話の仕方・花の咲く様子・種の植え方の動画もある。「おもちゃ図鑑」に係る動画では、動くおもちゃの様子などもあり、児童が動く仕組みを理解しやすい。</li> </ul>   |
| 音楽   | 教芸  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末の「振り返りのページ」に、各学年で学習した音楽を形づくっている要素を関連するページ番号とともに示しており、知りたいことをすぐに確認できるようになっている。</li> <li>・楽器の扱いについてのコラムで「手入れの仕方」を説明している。<br/>(例) 第1学年 P. 43 鍵盤ハーモニカ「ホースを洗う」<br/>第3学年 P. 27 リコーダー「ガーゼでマウスピースの手入れ」</li> <li>・リコーダーで立奏だけではなく、座ったときに吹く姿勢も提示している。</li> <li>・単元名とめあてがセットで示されており、何を目標として学習するのかが分かりやすい。</li> <li>・「歌声ルーム」というコラムでは、イラストを用いて学年の発達段階に応じた歌い方のポイントが分かりやすく示されている。</li> <li>・「タンギングと息の使い方」について、詳しく説明している。</li> </ul>   |
| 図画工作 | 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい資質能力を3つのキャラクター（くふうさん（知識・技能）、ひらめきさん（思考・判断・表現力）、こころさん（学びに向かう力、人間性など））で児童に親しみやすく示している。</li> <li>・学習のめあての中で重点的に付けたい力の下に線が引いてあり、キャラクターの吹き出しで、児童に意識させている。右下の振り返りとも整合性がある。</li> <li>・導入の二次元コードが全ての単元にあり、内容の動画が教材や学習内容への関心を高めるものになっている。</li> <li>・「つながる造形 美術館をたのしもう」では、美術館の活用の仕方や利用の際の注意事項など、分かりやすく示している。</li> <li>・巻末の「学びの資料」では、道具の使い方を写真と絵を効果的に使い分け、分かりやすく示している。</li> <li>・単元で使用する準備物が見開き左上に分かりやすく示されており、準備する保護者などの協力が得やすい。</li> <li>・児童の作品紹介が単調な表示とにならないよう、構図を工夫して示してある。</li> <li>・作品をつくっている児童の写真の表情が生き生きとしており、作品をつくる意欲付けにつながる。</li> </ul> |



| 種目 | 発行者 | 選定委員会意見（要約）  |
|----|-----|--|
| 家庭 | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての大題材のタイトル横に視点を示すとともに、キャラクターの吹き出しによって、見方・考え方に気付くための課題を投げかけている。</li> <li>・二次元コードによる調理などの動画が、適度な内容と時間によって分かりやすくつくられている。</li> <li>・夏休みにも学校での家庭科の学習を活かした生活ができるように、1学期に学習した内容でヒントを与え、発展的に学習に取り組めるように示している。</li> <li>・ミシンや裁縫に使う道具の名称や使い方を分かりやすく示している。</li> <li>・単元名がこの単元で何を学習するのかが分かりやすいものとなっている。</li> <li>・調理器具などの紹介がまとめてされており、使い方の説明は実際の使用場面で示してある。</li> </ul>   |
| 保健 | 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての単元の学習の進め方が「1 気づく・見つける」「2 調べる・解決する」「3 深める・伝える」「4 まとめる・生かす」の4つのステップで明確である。</li> <li>・「3 深める・伝える」では、学んだ知識を活用して事例を考え、説明させ、思考・判断・表現力を養うようになっている。</li> <li>・現実的で具体的に考えさせる問いが多い。</li> <li>・記述できる箇所が豊富であり、単元の導入に書き込んだ「メモ」の記述と、最後の「まとめる・生かす」の記述を比較することができるなど、児童の考えの変容を見取ることができるように工夫されている。</li> <li>・二次元コードからの資料が充実している。視聴覚に訴え、学習内容をより深く理解できるようになっている。</li> </ul>  |
| 英語 | 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5・6学年の教科書ともに、巻末にCAN-DO リストがCAN-DO チェックとして、単元ごとの表で示されている。</li> <li>・CAN-DO リストは、4技能ごとに「わかる」「使える」の視点で、3段階チェックになっており、色を塗り、コメントを書くようになっているため、学習内容を具体的な視点で振り返りやすい。</li> <li>・別冊でワードリストが「Word Book」として各学年1冊ずつある。カラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。ジャンルごとに二次元コード（発音）がついている。</li> <li>・見開き2ページで、4技能5領域の学習活動がバランスよくできるように構成されている。</li> <li>・書く活動が適度に示されている。聞く・話す活動の後に音声を聞きながら文を指で追う活動を経て書く活動が取り入れてあり、無理なく書けるような流れとなっている。4線の幅は書きやすい大きさで、目的に合わせて英語が示されている。</li> <li>・「話す」「聞く」の言語活動が多く設定されている。左下に Small Talk が示してあり、本単元に関連した話題のやりとりをさせることで、既習表現の定着を図ったり、会話の幅を広げたりできるようにしている。</li> <li>・Classroom English として「授業で使える 20 の表現」が巻頭に示してある。</li> </ul> |

| 種目 | 発行者 | 選定委員会意見（要約）   |
|----|-----|---|
| 道徳 | 日文  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教材文について記述できる道徳ノートがあり、自分の考えを書くことができる。問いが固定されて記入されておらず、指導者の児童観や指導観などによる裁量を生かせるようになっている。</li> <li>・いじめの4層構造では、さらに助ける大人が描かれている。</li> <li>・各教材文に中心発問を含む2つの発問が掲載されている。中心発問は、登場人物の価値観の高まりの場面での問いとなっている。他の基本発問は指導者の児童観や指導観などによる裁量を生かせるようになっている。</li> <li>・各教材文の冒頭に、あらすじの一部や登場人物が示されており、児童の内容理解の助けとなっている。また、キャラクターの冒頭での問いが、学習する価値への導入となっており、その価値についてブレずに考えさせることの助けにもなっている。</li> <li>・全ての教材文に二次元コードの資料が付いている。朗読やワークシート、心情メーターやクイズ、相談窓口など、内容も充実している。</li> </ul> |

## 小 学 校 国 語

| 新着 | 意 見   |
|----|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入ページがあり、単元で付ける「言葉の力」を明示している。既習事項の想起を促している。「学習の流れ」を示し学習の見通しをもてるようにしている。学習の流れは、上下2段組で構造的に示され、上段には学習過程に沿った課題が、下段には課題に取り組むノートの例、対話例などが具体的に示されており、児童自ら学習を進めることができる。また、学習活動に伝え合う活動を設定している。単元末の「ふり返る」では「言葉の力」を踏まえた「問い」を示し、学びを振り返らせている。学んだことを汎用的に活用するためのまとめを示している。「生かそう」では、身に付けた「言葉の力」を他教科や日常生活で活用することを示している。</li> <li>・評価項目を明らかにした形での振り返りではない。</li> <li>・第5、6学年においては、年間1冊であり厚くて重い。</li> <li>・ローマ字の指導について、第3学年で2回、第4学年で1回扱っている。</li> <li>・説明文の単元では、読んだ後に書く単元を配列している。</li> <li>・教科書と連動したデジタルコンテンツが用意され、学習に興味関心をもったり、動画により話し合いを活発にさせたり、漢字の練習問題に取り組んだりすることができる。巻頭には「デジタルノートの作り方」が示され、二次元コードを読むと実際に使うことができる。</li> <li>・1年生の促音、長音、拗音の学習にMIM（多層指導モデル）を取り入れ、音と文字の関係を体感的に捉えるようにしている。</li> </ul> |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元で付ける「言葉の力」を明示している。学習のてびきに学習の流れが、上下2段組で構造的に示され、上段には学習過程に沿った課題が、下段には学習を支えるツールや反応例などが具体的に示されており、児童自ら学習を進めることができる。また、学習活動に伝え合う活動を設定している。単元末には、学習の重点をまとめた「ここが大事」として、学んだことを汎用的に活用するためのまとめが児童に語りかけるように書かれている。「振り返ろう」は、概ね、思考力・判断力・表現力と主体的に学習に取り組む態度の2つの観点で示されている。</li> <li>・単元において既習事項との関連は示されていない。</li> <li>・全学年上下巻の2冊になっており、軽くて扱いやすい。</li> <li>・ローマ字の指導について、第3学年で1回だけの扱いである。</li> <li>・第3学年以上で学年初めの説明文を学習する単元において、練習の説明文が載っている。</li> <li>・「まなびリンク」という、二次元コードにより教科書と連動した情報がウェブサイトで見られるようになっており、学習への興味関心を高めたり、役立てたりすることができる。</li> <li>・巻頭の「ひろがる言葉」の上部分に他教科や日常生活で生かせる言葉の力を示し、巻末の「ひろがる言葉」では、身に付けた言葉の力に気づき、他教科や日常生活でどのように生かしていけるか考えさせるようにしている。</li> </ul>                                    |

- ・ 巻頭、巻末では、他教科や実生活で生かせる言葉の力が示されているが、単元では示されていない。
- ・ 単元で付ける「言葉の力」を明示している。「これまでの学習」などにおいて前学年で学んだことをまとめたページへとリードし、既習事項が確認できるようになっている。自ら学習に取り組めるように、「問いをもとう」が設定され、課題意識がもてるようになっている。学習の流れが、上下2段組で構造的に示され、上段には学習過程に沿った課題が、下段には学習を進める上でのヒントや例が具体的に示されている。また、学習活動に伝え合う活動を設定している。単元末に、学習で学んだことを汎用的に活用するための「たいせつ」が示され、「いかそう」では、身に付けた言葉の力を他教科や日常生活で活用することを示している。「ふりかえろう」は、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で示されている。
- ・ 「問いをもとう」に示された「問い」の内容は、児童が自分ごととして具体的に考えていく工夫がされているが、児童の状況によっては、自らの視点での問いが持ちにくい場合もあると考えられる。
- ・ 巻頭に1年間の自分の目標を、巻末に振り返りを書く欄がある。各単元での学習の進め方「どうやってまなんでいくのかな」を示し、その中で個と協働の学びを意識している。
- ・ 第5、6学年においては、年間1冊であり厚くて重い。
- ・ ローマ字の指導において、第3学年で1回、第4学年で1回扱っている。
- ・ 第3学年以上で学年初めの説明文を学習する単元において、練習の説明文が載っている。
- ・ 教科書と連動したデジタルコンテンツが用意されている。学習への興味関心を高めたり、話合いを活発にさせたりすることができる。裏表紙の二次元コードには、外国人児童などのための学校で使う日本語などに関するコンテンツもある。

## 小 学 校 書 写

| 新着 | 意 見   |
|----|---|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習事項のポイントを「書写のかぎ」として示し、キーワードは赤字で表記している。</li> <li>・第2学年以上の巻頭に「書写の学び方」として学習の手順を「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」→「ふり返ろう」と示し、各單元においても同じ段階を踏んで学習に取り組めるようになっている。</li> <li>・單元における「見つけよう」では、課題のある例を示したり比較したりするなど、児童自らがポイントに気付く設定となっている。</li> <li>・学習の振り返りの自己評価において、第1・2学年では「〇〇が分かった」や「〇〇ができた」など振り返りの観点が分かりやすいが、3学年からは「考えた」、「分かった」、「書けた」のみの表記になっている。</li> <li>・第3学年では、小筆の書き方（名前）が單元と單元との間で扱われている。</li> <li>・第1・2学年に水書用紙があるが水筆の持ち方やマス目などは表記されていない。</li> <li>・左利きの鉛筆の持ち方や毛筆での用具の置き方を示している。教材文字と書き込み欄を上下に配置して、左利きでも教材文字が隠れないようにしている。</li> <li>・筆の中に顔が書かれているイラストで、穂先の向きを意識できるようになっている。第3学年の毛筆教材で年間通して示している。</li> <li>・単元の導入にデジタルコンテンツを掲載しており、「どうなっているかな」のように、児童に投げかけ考えさせるようにしている。</li> <li>・「学びを生かそう」、「生活に広げよう」では、ノート、新聞、インタビューメモの書き方などを取り上げて、国語科、他教科での学習や生活に活用するようにしている。</li> </ul> |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の学習事項のポイントを「ここが大切」として示し、文章だけでなく写真や図などを用いて視覚的に表記している。</li> <li>・第2学年以上の巻頭に「学習の進め方」として学習の手順を示している。第3学年以上の巻頭には、「つかむ・考える」→「(書く)・たしかめる」→「ふり返る」→「生かす・広げる」と示し、段階を踏んで取り組めるようになっている。</li> <li>・各單元では「考えよう」→「ここが大切」→「生かそう」→「ふり返ろう」という段階を踏んで学習に取り組むようになっており、巻頭の「学習の進め方」として示されている言葉と一致させにくいところがある。</li> <li>・学習の振り返りとして、自己評価を行うことができる。「〇〇に気をつけて書いたかな」など振り返りの観点が明示されており、問いかけに答える形で振り返ることができる。</li> <li>・第3学年では小筆の書き方（名前）が巻末にある。</li> <li>・第1・2学年に水書用紙がある。部分的に運筆練習ができる線がある。水書用紙の使い方や水筆の持ち方が示されている。</li> <li>・左利きの鉛筆の持ち方や毛筆での用具の置き方を示している。</li> <li>・第3学年では、最初の「横画」、「縦画」の学習で穂先の向きを確認した後、穂先の向きを意識させる表記がない。</li> <li>・巻頭に書写で学習したことを他の学習や生活で生かすための單元を一覧で示し、学校生活のどの場面で生かせるのかが分かるように構成している。巻末に「書いて伝え合おう」の活動を設定し、国語科や他教科の学習、生活の中で生かす活動として、メモ、発表資料、新聞の書き方などを取り上げている。</li> </ul>       |

- ・単元の学習事項のポイントを「たいせつ」として示し、文章だけでなく、毛筆の画像や部分ごとの色分け、記号などを用いて視覚的に表記している。
- ・第3学年以上の巻頭に「学習の進め方」として学習の手順を「考えよう」→「たしかめよう」→「生かそう」と示し、各単元において同じ段階を踏んで学習に取り組めるようになっている。
- ・単元における「考えよう」では、課題のある例を示したり比較したりするなど、児童自らがポイントに気付く設定となっている。
- ・学習の振り返りとして、自己評価を行うことができる。第1・2学年では「できたかな」として「〇〇に気をつけて書いた」という振り返りの観点が示され、第3学年からは「ねらい」の下の部分のチェック欄で振り返ることができる。
- ・第3学年では、小筆の書き方（名前）が単元と単元との間で扱われている。
- ・第3学年の筆圧の指導が横画や縦画を扱った後、「はらい」の前に配置されている。
- ・第1・2学年に水書用紙があり、水筆の持ち方が示されている。第1学年のみ、部分的にマス目がある。
- ・左利きで書く人の手の押さえ方などは示されているが、左利きの鉛筆の持ち方を示していない。字を書く姿勢をデジタルコンテンツで確認することはできる。
- ・筆の中に顔が書かれているイラストで、穂先の向きを意識して書くことができるようになっている。第3学年の毛筆単元で年間通して示している。
- ・単元の導入でデジタルコンテンツのある教材があり、文字の観察・比較などを促しポイントを示している。
- ・「書写広げたい」として、書写での学習を国語科や他教科に生かす教材（リーフレット、手紙、横書きの書き方）を取り上げている。



## 小 学 校 社 会

| 著者 | 意 見  |
|----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年・各単元において「つかむ」「調べる」「まとめる」という枠組みの中に本時の目標が表示され、同じ学習過程が繰り返し提示されている。</li> <li>・単元初めの「つかむ」で、学習問題を立てるための資料が複数示されている。</li> <li>・二次元コードから、「学習のはじめに見てみよう」の動画サイトに移り学習課題を立てる内容が示されている。</li> <li>・日本の領土について「世界の中の位置」「多くの島からなる」「領土をめぐる問題」として本文・地図・写真が示されている。</li> <li>・「まなび方コーナー」で「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」学習技能を系統的に習得できるようにしている。</li> <li>・社会科で使う見方・考え方についてキャラクターを使い「広がり注目」「時間に注目」「関係するところに注目」「比べる・分ける・つなげる・まとめる」にイラストの種類を分け、本文に沿って示している。</li> <li>・地球儀と地図帳の違いが併記されていない。</li> <li>・複数の世界地図（メルカトル図法、モルワイデ図法、正距方位図法）を示しており、特徴の違いを整理しながら世界をとらえさせている。</li> <li>・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。</li> <li>・学習段階「いかす」を設定するとともに、「ひろげる」ページでは、興味や関心に応じて発展や補充ができる配列となっている。</li> <li>・教科書の二次元コードを読み取ることで、インタビューや導入の動画、ワークシート、クイズなどのコンテンツにアクセスできる。</li> <li>・単元末の「まとめる」では、クイズ・ワークシート・インタビュー、新聞、プレゼンなど、複数の方法が紹介されている。</li> <li>・「□学年で学んだことをふり返ろう」「SDGsについて考えてみよう」が掲載されている。</li> <li>・「いかす」ではマイ・タイムラインの作成を具体的に取り上げている。</li> <li>・「地震災害」「津波災害」「風水害」「火山・雪害」の4つの災害の種類ごとに構成し、災害が起こる原因や国・自治体の対策や事業について記述している。</li> <li>・「日本で近年起きた主な自然災害」として、日本周辺のプレートを示した日本地図、近年の主な自然災害の年表及び写真を掲載している。</li> <li>・「まとめるワークシート」の二次元コードを開くとワークシートと学習課題を立てるときに示された動画を見ることができ、それをもとに話し合いができるようになっている。</li> </ul> |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年・各単元において「つかむ」「調べる」「まとめる」という学習過程がインデックスでどのページにも示されている。</li> <li>・単位時間ごとに「この時間の問い」として見開き左ページに示し、「次につなげよう」で次時の「この時間の問い」につなげるように配置している。</li> <li>・学習課題をたてるための資料が少ない。</li> <li>・日本の領土について「日本の国土のすがた」「日本はどこまで？」として、見開きで本文・地図・写真で取り扱っている。</li> <li>・「学びの手引き」で「集める」「読み取る」「表す」学習技能を系統的に習得できるようになっている。</li> <li>・3年生の教科書で「社会科ガイド」のページが設けてあり、社会科における学び方をまとめて示している。</li> <li>・地球儀と地図帳の違いの記載がある。</li> <li>・世界地図が1種類（正距方位図法）しか示されていない。</li> </ul>   |

|           |   |
|-----------|---|
| <p>教出</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。</li> <li>・興味や関心に応じて活用する「もっと知りたい」のページが示されている。</li> <li>・「学びの手引き」として「集める」「読み取る」「表す」の項目で場面に応じた学習方法が示されている。</li> <li>・「まとめる」では、学年の発達段階に応じた様々なまとめ方が紹介されている。(関係図、人物のまとめ、思考ツール、タブレットの活用)</li> <li>・二次元コードに種類別のマークがあり、「動画・ワークシート・ウェブサイト・読み物・クイズ」などの違いが明記されている。</li> <li>・「□学年の学習をふり返ろう」「SDGs とつなげて考えよう」が掲載されている。</li> <li>・「地震」「雪害」「風水害」「火山災害」「土砂災害」について、写真・図表の資料を読み取り、対策を調べる内容としている。</li> <li>・近年発生した自然災害を示した日本地図や写真、年表を掲載している。</li> <li>・「つなげる」において、調べたことを自分達の生活に活かすための取組について話し合いを促している。</li> <li>・単元末のページでグラフを活用したり、関係図を使ったりしたまとめ方が学年に応じて掲載されている。</li> </ul>   |
| <p>日文</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年・各単元において「わたしたちの問題（最初に浮かぶ素朴な疑問）」「学習問題（学級全体で深めたい問題）」「さらに考えたい問題」と分けて示されている。</li> <li>・単元の初めに児童の言葉としてわかったことや不思議に思ったことを示し、そこから学習課題を立てるようにしている。</li> <li>・日本の領土について「日本の位置とはんい」「領土をめぐる問題」として本文・地図・写真が示されている。</li> <li>・地球儀と地図帳の違いの記載がある。</li> <li>・世界地図が1種類（メルカトル図法）しか示されていない。</li> <li>・学習指導要領に示されている歴史上の人物42名全員を取り上げている。</li> <li>・SDGs について自分達の生活に結び付けた記述がある。</li> <li>・「学び方・調べ方コーナー」の「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の項目で場面に応じた学習方法が示されている。</li> <li>・「表現する」では新聞にまとめる、図を使ってまとめるなどの活動の例示や進め方がある。</li> <li>・社会科で使う見方・考え方についてイラストを使い「空間」「時間」「関係」に分けて本文に沿って示している。</li> <li>・社会科の学習の進め方を「学習問題」「問題と追究」「新たな疑問」「問題を追究」「役立てる」といったプロセスとともに掲載している。</li> <li>・二次元コードを示し、デジタルコンテンツを活用して学習を進められるようにしている。</li> <li>・「問題を発見する」「問題を追究・解決する」「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる」の学習の流れが本文中から分かりにくい。</li> <li>・学習に役立つ資料として「コラム」のページがあるが、扱われている量が少ない。</li> <li>・学年末に「□学年の学習をふり返って」のページを設け、どんな力が付いたか確認するページや次学年で学習する内容を紹介するページが設けてある。</li> <li>・「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」 「□学年の学習をふり返って」「どんな力が身についたかな」「△学年に向かって」が掲載されている。</li> <li>・東日本大震災を事例として、防災・減災の取組について記述している。</li> <li>・日本で起きた主な自然災害についての表、地形に関係のある自然災害、気候に関係のある自然災害を示した日本地図及び写真を掲載している。</li> <li>・学習のまとめとして、ポスター、ガイドマップ、標語、年表、紙芝居、人物カード、デジタル新聞を作成することを具体的に紹介している。</li> </ul> |



## 小 学 校 地 図

| 発行者 | 意 見  |
|-----|--|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縮尺は、竹ものさしを想起するような縮尺で、各ページに意識づけられている。</li> <li>・「日本の自然災害」では、被害状況を伝える写真などを掲載したり、記録に残る被害を出した地震や豪雨、噴火などの災害発生場所を地図に示したりしている。</li> <li>・世界地図のページでは、各国の文化や特徴を表す写真が掲載されたページとないページがある。</li> <li>・「ホップステップマップでジャンプ」コーナーでは、様々な問いかけから地図で調べたくなる活動を促すものが配置してある。また、★によってレベルの違いが示され、自分にあった学習を児童自身が取り組めるようになっている。</li> <li>・世界全図と地球儀の使い方を写真で紹介しているが、二次元コードがないためスライドなどを通しての学習ができない。</li> <li>・導入期の3年生には、情報が多過ぎて把握しにくい。</li> <li>・歴史の学習に役立つよう、歴史的な地名を青色の反転文字で表記している。</li> <li>・冒頭に配置されている「地図のきまり」「地図帳の使い方」は8ページにわたりキャラクターがガイドをしながら基本が学べるようにしている。</li> <li>・ハザードマップから避難を促す記述がある。</li> </ul>  |
| 帝国  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・縮尺は、竹ものさしを想起するような縮尺で、各ページに意識づけられている。</li> <li>・「日本の自然災害と防災（1）」では、主な地震の震源を地図に示すとともに被害状況を伝える写真などを掲載している。「日本の自然災害と防災（2）」では、各地の防災の取組や防災マップ作りについて掲載している。</li> <li>・世界地図のページでは、各国の文化や特徴が分かる写真を「集まれ！世界の子どもたち」「世界のSDGs」のコーナーを設けて紹介している。</li> <li>・「トライ」（11問）「地図マスターへの道」（100問）など、地図に親しめる問いや関心をもつ、資料活用を促す問いが工夫されている。</li> <li>・世界と地球儀では、地球儀の使い方を写真と文字で説明するだけでなく、二次元コードによる動画を用いて、立体的に理解できるよう工夫されている。</li> <li>・160万分の1の地図を中心に配置され、導入期の3年生でも見やすいよう情報が抑えられており、全体をつかみやすい。</li> <li>・歴史や文化の学習に役立つよう、歴史的な地名を青色、世界文化遺産を緑色の反転文字で表記している。</li> <li>・冒頭に配置されている「地図のやくそく」「地図帳の使い方」は14ページにわたり、地図活用の基礎基本がわかりやすく説明されており、フォントも大きく導入期の3年生にも理解しやすい。</li> <li>・学校周辺のハザードマップから、防災マップづくりの手順を示し、児童自らが考えて、表現する例を示している。</li> </ul> |

## 小 学 校 算 数

| 新着  | 意 見  |
|-----|--|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーブル図の説明が丁寧で分かりやすい。(2年下巻図を使って考えよう)</li> <li>・ 1年生は、教科書とワークシートが一体化した薄い冊子があり、学習に取り組みやすくなっている。</li> <li>・ 4年以上の教科書の巻頭に、「私と算数」というページを設け、世界で活躍する日本人(スポーツ選手や宇宙飛行士)のインタビューを掲載している。</li> <li>・ 4年生「資料の整理」と「グラフや表」を同一単元で扱い、かき方の習熟に偏っている。</li> <li>・ 6年生の配当時間が多い。</li> <li>・ 考え方のヒントがセリフだけでなく図でも表されている。</li> <li>・ 学習内容以外の二次元コード(感染予防やコンピューターの使い方など)がある。</li> </ul>   |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆算のアルゴリズムの整理の仕方が分かりにくい。(4年上巻P.53)</li> <li>・ 巻末に数直線図のかき方を整理している。(4年)</li> <li>・ 「算数たまたまこ」のコーナーで、児童の興味を喚起するとともに、数学的なポイントも押さえている。</li> <li>・ 児童の思考の流れに沿っていない授業展開がある。(6年拡大図・縮図など)</li> <li>・ 1年生は、教科書とワークシートが一体化した薄い冊子があり、学習に取り組みやすくなっている。</li> <li>・ 2年生以上は上下巻まとめて1冊になっており、重い。</li> <li>・ 黒板のイラストが大きすぎる。</li> </ul>   |
| 学図  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の思考の流れに沿っていない単元構成や授業展開がある。(2年100をこえる数、4年割合、わり算、6年拡大図・縮図など)</li> <li>・ 「ふりかえろう」で考え方モンスターが分かりやすくまとめている。</li> <li>・ SDGsに視点を当てた「算数をつかって」のコーナーは、やや唐突な感じがするとともに、取り扱う時間的な余裕もない。</li> <li>・ 6年生には、既習事項の復習になるような薄い冊子があり、学習に取り組みやすくなっている。</li> <li>・ 1年生の早い段階から言語活動を求める問いが出てきており、協働的な学びにつながる「話し合い」の場が、他者に比べて多い。</li> <li>・ 計算や図の過程を説明する問いが大変多く、説明する場面が続く授業展開が多い。(時間的にも無理がある)</li> <li>・ めあて、まとめが大きくて見やすい。</li> <li>・ 外部リンクのサイトの資料を見ることができる。</li> </ul> |

|     |   |
|-----|---|
| 教出  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と結びつけて考えるコーナー「学んだことを使おう」が充実している。</li> <li>・巻末の学びの手引きが分かりやすく役に立つ。</li> <li>・思考の流れに沿った授業の進め方になっている単元が多い。</li> <li>・複合図形の体積の求め方で、2通りの図しか載っていない。</li> <li>・行間がせまく字が小さいためやや見づらい。</li> <li>・4年生の配当時間が多い。</li> <li>・表などの書き込み欄が小さく書き込みにくい。</li> <li>・既習事項を確認できる二次元コードがある。</li> </ul>  |
| 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な見方・考え方の育成を重視している。(マーカー)</li> <li>・児童の思考の流れに沿った授業展開、単元配列となっている。</li> <li>・数の構成を5といくつで表しており分かりやすい。(1年算数セットもこの形)</li> <li>・関係図の活用が児童の思考を助けている。</li> <li>・6年生「場合を順序良く整理して」では、組み合わせ→順列の扱いになっている。(通常、公式を作成するときは、順列→組み合わせで扱う。)</li> <li>・1年生は、教科書とワークシートが一体化した薄い冊子があり、学習に取り組みやすくなっている。</li> <li>・シンプルな作りであり、教員の裁量に任せられる点が多い。(・若手教職員にとっては不親切かも)</li> <li>・低学年の場合、説明が少ない分、教科書の展開が速く、他者の教科書より難しさを感じる。(授業で補う必要あり)</li> <li>・表などの書き込み欄が大きく書き込みやすい。</li> <li>・単元、教科書のページに二次元コードの読み取りがあり、何の二次元コードなのか横に書いてあるので分かりやすい。</li> </ul> |
| 日文  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思考の流れに沿った授業展開となっている単元が多い。</li> <li>・ステップ別練習問題「算数マイトライ」にぎっしりと問題がつまっており、とっつきにくさがある。</li> <li>・1年生は、教科書とワークシートが一体化した薄い冊子があり、学習に取り組みやすくなっている。</li> <li>・挿絵や色分け、吹き出しなどの工夫が多様で、学習内容がつかみやすい。(4年わり算、6年データの調べ方など)</li> <li>・4年生、6年生の配当時間が多い。</li> <li>・ヒントとなる図やセリフがやや少ない。</li> <li>・表などの書き込み欄が大きく書き込みやすい。</li> <li>・アニメーションの映像がなめらかで見やすい。</li> <li>・知識・技能の習得と求めている言語活動が一致していない箇所がある。</li> </ul>   |

## 小 学 校 理 科

| 発行者 | 意 見  |
|-----|--|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の最初の頁に単元の目標が大きく短い言葉で示されており、児童に伝わりやすい。吹き出しや挿絵には学習内容を想起させる問いもあり、何を学習するのかイメージしやすい。</li> <li>・節末の「理科の世界たんけん部」には、学んだことをさらに深めることができるような読み物がある。また、デジタルコンテンツ「理科のひろば」には教科書に掲載されていない読み物や資料などもあり、特に興味・関心の強い児童がさらに学びを広げることができる。</li> <li>・実験器具の使い方や理科室の使い方がまとめて写真やイラストで示されており、詳しい注意点や実験のポイントが吹き出しなどで目立つようにしている。</li> <li>・単元の導入ページが見開き2ページで簡潔に示されていて考えやすい。</li> <li>・巻頭の手引きに問題解決の流れ（問題→予想→計画→…）が表で示してあり、色分けもはっきりとしてあり、つかみやすい。</li> <li>・6年「水溶液の性質とはたらき」が17時間配当と、他者と比較して多い。</li> <li>・裏表紙に目次がかかかれているので、学習するページが見つけやすい。</li> <li>・考察では、対話形式や考察の視点が書かれており、考察をする際の手がかりとなる。</li> <li>・学習活動において、児童の対話を示している箇所がある。対話のイメージをもつことができるとともに、ヒントとして対話のきっかけにすることができる。</li> <li>・詳しく説明が書かれているため、児童が自分たちの経験や実験結果などから考える妨げとなることも考えられる。</li> </ul> |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入は、自然の事物・現象について写真を見たり活動をしったりして問題を見つける形式になっており、児童の主體的な活動を促している。</li> <li>・単元末の「学んだことを生かそう」では、学んだことをもとに自分の考えや理由を説明する問題があり、思考力・判断力・表現力の育成ができる。</li> <li>・単元の導入ページが見開き2ページで簡潔に示され、写真が大きく迫力があるものが多く関心をひきやすい。</li> <li>・巻頭の「理科の学び方」（問題解決の流れ問題→予想→計画→…）を図ですっきり示してあり、分かりやすい。</li> <li>・3年のチョウと昆虫を「こん虫の育ち方」として同一単元で扱っている。他者はチョウと昆虫を別単元として構成している。</li> <li>・巻末のページに学年の学習のまとめや次学年で学習することが書かれてあり、次学年への興味をもたせることができる。</li> <li>・「考察するコツ」「ココに注目」などポイントが示されており、考察する際の助けとなる。</li> <li>・児童の対話の文末が「…」で表現されており、対話のイメージをもたせたり、ヒントとして対話のきっかけにしたりできる。</li> <li>・観察・実験における準備物が記載されていないため、準備物が教科書では確認できない。</li> <li>・単元末にコラムや資料をまとめて載せてあるが、文字量・情報量ともに多いため、文章を読むのが苦手な児童は読みとばしてしまう可能性がある。</li> </ul>   |

|                |  |
|----------------|--|
| <p>学<br/>図</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の初めの頁に章の目標が詳しく示されおり、さらに吹き出しには学習内容を想起させる問いがある。「できるようにになりたい」では、その章で特につけたい力を示して、見通しを持たせることができる。</li> <li>・「やってみよう」というページがあり、学んだことを活用して、実験・観察や説明活動をしったりすることで、理解を深めたり、学びを振り返ったりすることができる。</li> <li>・児童が親しみやすいゲーム性のあるキャラクターイラストで興味をひきやすい。</li> <li>・単元最初の導入のページでどのような力をつけていくとよいかが示してあり、見通しが持てる。また、単元終わりにももう一度どのような理科の力を使ったか、身に付けられたかを振り返っている。</li> <li>・3年「風のはたらき」と「ゴムのはたらき」を別単元として構成している。他者は風の力とゴムの力を同一単元で扱っている。</li> <li>・キャラクターが会話形式で疑問や思考の流れを掲示しているため、学習の流れを把握しやすい。</li> <li>・考察は、質問に対し対話形式で考えているものや図を使っているものなどがあり、結果をどのように見ていくかの助けとなる。</li> <li>・予想や考察においては、児童の対話で示されているところがある。対話の文末が「…」で表現されているところもあり、対話のイメージをもたせ、考えを深めるためのヒントとすることができる。</li> <li>・観察・実験のページは、背景を水色にしてあり、準備物もチェックできるが、実験操作の注意点やポイントが多く、特に注意すべきポイントがわかりにくい。</li> </ul>   |
| <p>教<br/>出</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入は、学習内容に関する身の回りの事象が取り上げられており、児童の興味・関心を高め、「なぜ？」と問題が考えられるようになっている。</li> <li>・「学びを広げよう」では、学習したことをもとに、日常生活の現象を説明する問題があり、理科の有用性やおもしろさを感じさせることができる。</li> <li>・4年「水のすがたの変化」で液体、気体、固体、水蒸気を学習後、「水のゆくえ」で蒸発、結露を学習する配列となっている。</li> <li>・「注意」・「きけん！」マークで、気を付けるポイントが赤字で書かれている。裏表紙には「理科の安全の手引き」が掲載されており、すぐに安全のための基本的技能を確認することができる。</li> <li>・3年理科の最初のページには生活科から理科への移行について書いてあり、4～6年は、前学年の学習内容が書かれてあり、つながりを意識した学習ができるようになっている。</li> <li>・単元の導入や「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「結果から考えよう」「結論」といった学習過程において、教師の問いかけに答える形で児童同士が対話している箇所がある。対話のきっかけにできるとともに対話のイメージをもつことができる。</li> <li>・コラムや発展資料が単元の途中にコンスタントに掲載されていて関心を高めるのによく、幅広い人物（科学者）のメッセージが載っているが、身近ではない人物が多く、また文章量も多い。</li> <li>・巻頭の手引きに問題解決の流れが追っているが、吹き出しが多く、複数ページにわたって説明がしてあり、手順として理解しにくい。</li> <li>・「考察」「まとめ」という言葉を使わず、代わりに「結果から考えよう」「結論」という言葉が使われている。</li> </ul> |



- ・単元の導入ページが見開き2ページで簡潔に示され、写真が大きく迫力があるものが多く関心をひきやすい。
- ・見開きの左ページにまとめが示されており、右ページに「まとめノート」や視覚的に分かりやすい写真などが配置されていて、概念の定着及び理解を深めるための工夫がある。
- ・「理科の広場」や「くらしとリンク」のページでは、実生活や実社会と関連した理科の題材を取り上げ、写真や図と文章で紹介しており、興味関心を高めることができる。
- ・実験・観察の手順とともに、実験中に活用できる表が記載してあり、結果の整理につなげやすい。
- ・実験の際の条件設定(例示)が多いため児童が自分で計画を立てる際の手掛かりとなる。
- ・5年「メダカのたんじょう」、「花から実へ」、「ヒトのたんじょう」を連続した単元としている。
- ・5年のコラム欄では、「ひろしまマイ・タイムライン」による避難行動の計画や、広島市にあるスタジアムの地下にある雨水槽に大雨で溢れた雨水を一時的に貯め、スタジアムのトイレの洗浄水やグラウンドの散水として再利用していることを紹介しており、児童が身近に感じることができる。
- ・ダウンロードができるイラストデータ集やSDGs17の項目、それぞれの単元に出てくる二次元コードの一覧があるので、学習に合わせた使い方ができる。
- ・対話形式で考察の視点が分かりやすく表現されている。
- ・「問題をつかもう」では、見つけた「不思議」について、児童の話し合いから問題を見つけることができるようになっており、ポイントとなる言葉にはマーカーが引いてある。
- ・コラムや発展資料の文字量、情報量が多く、また、まとめて一度に載せてあり、文章の読み取りが苦手な児童には難しい。

## 小 学 校 生 活

| 発行者 | 意 見  |
|-----|--|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・おもちゃで遊んでみる→作る→工夫・改良→ルールを考える→おもちゃ大会という流れで具体の体験を重ねる中で活動が深まるようになっている。</li> <li>・1年間の活動を振り返り、できるようになったことを紹介し合うことで自分の成長に気付かせる工夫がある。</li> <li>・伝え合いの場面で国語科「話をつなごう」と関連付けたり、長さ比べなど算数科と関連付けたりしている。</li> <li>・上・下巻共に巻末に「かつどうべんりてちょう」として、活動に即して身に付けたい習慣や技能などをまとめた資料を掲載。交通安全や道具の使い方、表現方法など資料の内容が充実している。</li> <li>・上巻は、前回より10%の軽量化をしてあり1年生の負担に配慮している。その分、デジタルコンテンツが充実している。</li> <li>・キャラクター「まなびい」「ずかんちゃん」の役割が明確で、児童に思考や活動、安全・衛生上の留意を促している。</li> <li>・二次元コードを読み取ることで、クイズや植物図鑑、花の残し方、秋植えの植物の画像や「たね、世話のしかた、花の咲く様子、種の数え方」の動画を見ることができ。また、「おもちゃのうごき」「やくそく」「おもちゃ図かん」が添付されており、紙面以上の情報量がある。</li> </ul> |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かんさつにつき」の例示には、毎回自己評価と五感を意識させる感想欄などの工夫がある。</li> <li>・友達との交流や教え合い、おもちゃで遊ぶなどコミュニケーションを図りながら活動する流れになっている。さらに、工夫の段階では「友だちの工夫を聞いてみよう」との記述がある。</li> <li>・二次元コードを読み取ることで、18種類の花や野菜の画像や野菜を使った料理の調理法を見ることができ。また、「発芽の様子、まびき、支柱の立て方、土の中のサツマイモの様子」を動画で見ることができ。</li> <li>・具体的な苗の植え方や育て方が紙面に明記されていない。(デジタルコンテンツで見ることができ。)</li> <li>・写真やイラスト、吹き出しなどで、ヒントや想定される課題などが表現されているが、全体的にイラストなどの数が少なく白い部分が目につく。</li> </ul>   |
| 学図  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末「学びかたずかん」の中で、見つけたものをどのような視点で見ればよいのか紹介している。</li> <li>・紹介するおもちゃの数が12種類で他者と比べて一番多い。</li> <li>・他者と比較してワークシートの提示が多く活動ごとの振り返りの様子がわかりやすい。</li> <li>・デジタルコンテンツで「おもちゃの作り方」(動画)を見ることができ。巻末に「学び方図かん」があり、「くふうする」や「道具の使い方」などの紹介がある。</li> <li>・苗屋さんに行ったり畑をくわで耕したりする写真が載っているが、学習環境の面で、実態に合わない学校が多い。</li> </ul>  |

|            |  |
|------------|--|
| <p>教出</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元導入時の「わくわくすいっち」で生活経験を問い、個の興味・関心に応じて学習の進め方を見通せる工夫がある。</li> <li>・巻末の「学びのポケット」に「観察カードの書き方」や「コミュニケーションについて」、「ICT活用」、「SDGsについて」などの情報がある。</li> <li>・各単元に自己評価を促す「ぐんぐんはしご」を設けている。</li> <li>・デジタルコンテンツで「芽が出るようす」「つるの伸びるようす」「つぼみが開くようす」「たねのようす」を動画で見ることができる。また、クイズなどもあり、興味を持てる工夫がされている。</li> <li>・1年の最初から文字量が多く、読み物教科書になっている。</li> </ul>                                    |
| <p>光村</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「けいかくカード」「だいはっけん(カード)」・付箋の見本がわかるように載っている。</li> <li>・「こんなことあるかもね」ヨシタケシンスケさんの漫画コーナーは、児童の興味をひき、ものの見方や考え方のヒントにつながる。また、ヨシタケシンスケさんのイラストは、ほのぼのとしており、つぶやきなど共感できる。</li> <li>・「どうぐを正しく使おう」の記述がある。また「ひろがるせいかつじてん」(巻末に添付)に詳しい説明があり、二次元コードを読み取ることで、動画を見ることがもできる。</li> <li>・二次元コードで「けんこう」に関すること(活動の前後に手洗い・こまめに水分をとるなど)が読み取ることができる。</li> <li>・意図的に五感を意識させるような働きが見られない。</li> </ul> |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・上巻の7か所に「びっくりずかんLIVE(らいぶ)」として、四季に応じた自然に興味関心を引く写真を提示している。</li> <li>・単元の構成が、わくわくタイムから始まり「わくわく・いきいき・ぐんぐん」の3段階の構成になっている</li> <li>・デジタルコンテンツで「学びウェブ」「デジタルたんけんブック」を見ることができる。単元ごとの追加資料や、植物や昆虫、町の様子などについての資料が充実している。</li> <li>・教科書サイズが小さいので持ち運びによい。</li> </ul>  |



## 小 学 校 音 楽

| 著者  | 意 見  |
|-----|--|
| 教 出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・見開きページの右上部に「音楽のもと」としてその教材で指導する共通事項「音楽を形作っている要素」を示し、3年生以上にはメモ欄を設けている。</li> <li>・「まなびナビ」マークで活動のポイントを提示し、指導上の留意点や評価のガイドも視野に設定されている。そのため、児童が見通しをもって学習を進めるための支援となっている。</li> <li>また、学習の過程を示し、表したい思いや意図を言語で伝えあったり、例を示しながら音楽表現に対する思いや意図を深めたりする場面の設定をしている。</li> <li>・楽曲の解説・分かりにくい歌詞の解説とともに写真の掲載も多い。</li> <li>・リコーダーのふき口を下にしたイラストで示し、「シ・ラ・ソ」は写真で指使いを掲載しているので、右手・左手の位置がわかりやすい。</li> <li>・2年で、太鼓の曲4曲を鑑賞し、「お祭りの音楽をつくろう」に発展させているところは、どの児童も興味をもって取り組めてよい。</li> <li>・4年共通教材「さくらさくら」では、鑑賞曲「さくら変奏曲」へと学びをつなげ、P.63「ことにチャレンジ」P.75「英語で歌う」にも発展させている。</li> <li>・学び合う音楽で示されている活動を促す文章が具体的でイメージしやすい。<br/>(6年おぼろ月夜P.13)(6年われは海の子P.25)(3年ふじ山P.43)</li> <li>・楽器の手入れの仕方の表示がない。</li> <li>・見開きごとに学習のねらいと、学び方を示唆する「まなびナビ」が示されているが、題材としてのふり返りなどは示されていない。</li> <li>・6年「越天楽今様」の資料として、後のページに「雅楽の魅力」の写真や解説があるが、もう少し関連付けしやすい掲載の仕方が望ましい。</li> <li>・資料として、共通事項の内容を『「音楽のもと」まとめ』に示しているが、高学年の表記は分かりにくい。</li> </ul> |
| 教 芸 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・巻末には、鑑賞資料やリコーダー運指表、楽典事項、ふり返りのページがまとめて設けられており、児童が興味・関心をもちながら主体的に学習を進めていくことができるように工夫されている。「ふり返りのページ」に、各学年で学習した音楽を形づくっている要素を、関連するページ番号とともに示している。</li> <li>・題材に関連する共通事項が、題材の横に色を付けた円で囲んで示されている。</li> <li>・楽典の新出事項は、「がくふマスター」としてまとめて掲載され、書き込めるようになっている。</li> <li>・「歌声ルーム」というコラムでは、イラストを用いて学年の発達段階に応じた発声のポイントを具体的に示している。</li> <li>・「タンギングと息の使い方」について詳しく説明している。</li> <li>・各題材の最初のページに題材のねらいを、最後のページに学習を振り返るまとめが掲載されており、児童がこの題材で「何を学んだのか」「何ができるようになったのか」を確認できるよう工夫されている。</li> <li>・4年「おどりやまいの音楽」として7枚、5年「民謡めぐり」の例として8枚の写真が掲載されている。解説付きなのでわかりやすい。広島「壬生の花田植」(4年)「音戸の舟歌」(5年)も掲載され、興味をもつことができる。</li> <li>・「見つける」「考える」「歌う」のマークを付け表したい思いや意図を言葉で伝える場面を設定し音楽表現に対する思いや意図を深めていく場面を設定している。</li> <li>・歌詞の解説の文字が背景との関係や文字の大きさの関係で見えづらい。写真の掲載が少ない。</li> <li>・6年「日本や世界の音楽に親しもう」の題材では、学習を深めるための関連学習はない。</li> </ul>   |

## 小 学 校 図 画 工 作

| 著者  | 意 見   |
|-----|---|
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい資質能力を3つのキャラクターを用いて親しみやすく、示している。</li> <li>・文字の大きさ、フォントが目につきやすい。</li> <li>・題材によって配慮すべき安全対策が具体的に示されている。</li> <li>・題材名の表現が工夫されており意欲を高めている。また、題材名の下に意欲を高める文章が掲載されている。</li> <li>・小さな美術館には有名な絵画があり、鑑賞する視点も明確にされている。</li> <li>・題材を5つの内容に分類して配列している。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識した書体になっている。</li> <li>・写真が大きく余白もあり見やすい印象がある。</li> <li>・どの学習にも振り返りの視点がある。</li> <li>・友達と協力している写真が多く、感想を言い合う吹き出しも付いていることから言語活動の促進を促す意図が分かる。</li> <li>・情報量、作品写真などが比較的少ない印象を受ける。</li> <li>・学習の進め方を巻頭に示すなど図画工作を学ぶ心構えを作るものがあるといい。</li> <li>・鑑賞への手立てが比較的少ない印象を受ける。</li> </ul>   |
| 日文  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたい資質能力を「手・電球・顔」のマークによって分けて示している。</li> <li>・学習の進め方のオリエンテーションが巻頭にある。</li> <li>・虫眼鏡マークが共通事項の学習を分かり易く示している。</li> <li>・用具の安全指導が「○×」で分かり易く示してある。</li> <li>・児童の活動の様子がよくわかる臨場感のある写真が使われている。</li> <li>・すべての題材に鑑賞のマークがあり、関わりが示されている。</li> <li>・教科書美術館、図工のみかた、広がる図工のページが設定されており身の回りのものから美術作品まで幅広い造形に触れることができる。</li> <li>・教科書美術館に様々なテーマで興味深い作品が掲載されている。</li> <li>・題材を5つに分類するとともに、学びを次に生かせる系統性が感じられる配列になっている。</li> <li>・ユニバーサルデザインを意識した書体となっている。</li> <li>・めあてが反映していることが分かり易い作品が掲載されている。</li> <li>・どの学習にも振り返りの視点がある。</li> <li>・会話形式の吹き出しが多く言語活動のヒントとなる。</li> <li>・見開きで一つの題材になっていないところがある。</li> <li>・掲載作品数が多いが、少し混雑している印象を受ける。</li> <li>・フォントが少し小さい印象を受ける。</li> </ul> |

## 小 学 校 家 庭

| 発者  | 意 見  |
|-----|--|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全題材を3つの小題材（「見つめよう」、「計画しよう・実践しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」）で展開することで、問題解決的な学習を進めることができる。</li> <li>・家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての大題材のタイトル横に視点を示すとともに、キャラクターの吹き出しにより、見方・考え方に気付くための課題を投げかけている。また、小題材の「活動」の中に家庭科の窓を意識して考えさせる場面を設定している箇所がある。</li> <li>・「生活を変えるチャンス！」において、生活の課題と実践の展開が示され、実践例と課題例が多く、生活をよりよくするための学習の充実が期待できる。</li> <li>・目次の裏ページに2年間分の学習が示されている「成長の記録」があり、自己評価しながら次へのチャレンジにつなぐ工夫がある。</li> <li>・巻頭、巻末、題材内の「いつも確かめよう」で実習や製作に関する基礎・基本や作業の手順を丁寧に押さえている。</li> <li>・活動マーク（「考えよう」「調べよう」「やってみよう」「話し合おう」「深めよう」）を設定することにより学習の流れが分かりやすく、児童が見通しをもちながら主体的に学習を進めることができるように工夫している。</li> <li>・全体を通して、表現するための例やワークシートが図や二次元コードで多く示され、具体的な言語活動が見えるよう工夫している。さらに、動画資料は、内容、画像、テロップが充実している。</li> <li>・小題材の「めあて」に対する「振り返り」にチェック欄や記述欄がないため、児童の達成度までを見取る方法に工夫が必要であると思われる。</li> </ul> |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全題材を3つの小題材（「気づく・見つける」、「わかる・できる」、「生かす・深める」）で展開することで、問題解決的な学習を進めることができる。</li> <li>・家庭科の見方・考え方を「生活の見方・考え方4つの視点」として図化している。また、登場するキャラクターが示すマークや吹き出しにより、見方・考え方に気付くためのヒントを示したり、課題意識をもって取り組めるようにしたりしている。また、4つの視点を意識した実践例が示されている小題材がある。</li> <li>・各題材の導入、途中、「生かす・深める」、「生活に生かそう」に、自分の考えや工夫、生活に生かしたいことを書き込めるスペースやデジタルの活動コンテンツにワークシートがある。</li> <li>・題材の始めの「めあて」と実習後の「できたかな」がどちらも具体的で、付けたい力が明確である。また、題材末の「学習をふり返ろう」が題材始めの「めあて」に対応している。</li> <li>・野菜の切り方が掲載されている裏表紙は、濡れにくい素材であり、調理実習の時にも容易に見ることができる。</li> <li>・作業工程を横一列に示し背景に色をつけ、資料と分けて記載しているので手順がわかりやすい。</li> <li>・各題材の「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」や「生活の課題と実せん例」には、児童の実践や交流し合う場面のイラストがあり学習方法や内容をイメージしやすい。</li> <li>・「生活の課題と実せん例」の課題例やまとめ方の例の掲載が少ない。</li> <li>・2ページしかない題材が一つあり、学習を進めるのが難しいのではないと思われる。</li> </ul>             |

## 小 学 校 保 健

| 発行者 | 意 見   |
|-----|---|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入で、シルエットで男女の違いを考えさせるなど、学びの必然性を生む工夫がある。また、学習課題を自分のこととして捉えることができる工夫がある。(基礎)</li> <li>・各単元に、学習内容に関する写真や問題解決に効果的なコンテンツへの二次元コードが掲載されており、児童が実生活や実社会に関連付けて学習を進めていけるように工夫がされている。(主体)</li> <li>・どの単元も、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」と4ステップの内容構成になっており分かりやすい。(構成)</li> <li>・記述できる箇所が豊富であり、単元の導入に書き込んだ「メモ」の記述と、最後の「まとめる・生かす」の記述を比較することができるなど、児童の考えの変容を見取ることができるように工夫されている。(言語)</li> </ul> |
| 大日本 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入で、自分の成長や変化を考えさせることで、学習課題を自分のこととして捉えることができる工夫がある。(基礎)</li> <li>・「ミニ知識」が各ページ下に書かれていたり、書き込みできる場所が設けられていたりして、自ら学びたくなる工夫がしてある。(主体)</li> <li>・表紙の次のページを工夫して、各時間の「つかもう」の時は、続きの部分を隠して考えられるようになっている。(内容)</li> <li>・学習の振り返りや学習をどのように生かしていくのかといった、自分の考えを書いたり、表現したりする活動が少ない。(言語)</li> </ul>  |
| 大修館 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの単元も、「課題をつかもう」→「きょうの課題」という順番になっており教師も児童も学習の流れに入りやすい内容となっている。(基礎)</li> <li>・「課題をつかもう」では、生活経験の中での知識を問うような質問があり、学習意欲の向上につながるように工夫されている。(主体)</li> <li>・どの単元も、イラスト、写真、図表などの掲載とそれに関する記述があり、学習内容の理解に効果的である。(内容)</li> <li>・自分の考えを記述できる箇所が少ない。(言語)</li> </ul>   |
| 文教社 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み物が中心になっており、導入や展開の場面において自らの生活と関連付けて考えることや課題意識をもつことが難しい。(基礎)</li> <li>・動画に音楽と音声がついており関心が持ちやすい。(主体)</li> <li>・発展的な学習に関する記述については、どの単元にも掲載されており、新たな知識を得ることができるような内容となっている。(構成)</li> <li>・自分の考えを記述できる箇所が少ない。(言語)</li> </ul>   |
| 光文  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の導入が、これまでの生活の中で学んできた内容を問う内容になっており、学習課題をつかみやすい内容になっている。(基礎)</li> <li>・興味・関心を高めるためのイラストや写真、グラフなどを効果的に活用している。(主体)</li> <li>・「見つけよう」「考えよう(調べよう)」「話し合おう」「生かそう」の順番に構成されているので思考の流れが分かりやすい。(構成)</li> <li>・自分の考えを記述できる箇所が少ない。(言語)</li> </ul>  |

|    |  |
|----|--|
| 学研 | <ul style="list-style-type: none"><li>・挿絵や写真などの視覚的な情報を、効果的に用いた導入・課題設定になっている。(基礎)</li><li>・動画に音声などがなく、その内容についての解説も少ない。(主体)</li><li>・1ページごとに学習を進めていくことができる構成になっており、ワークシートのように書き込みながら学習を進めていけるので、とてもシンプルに作られている。(構成)</li><li>・自分の考えや予想を記述したり、学んだことから考えたことを書いたりするスペースが豊富である。(言語)</li></ul> |
|----|--|



## 小 学 校 英 語

| 著者  | 意 見   |
|-----|---|
| 東書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードリストが「My Picture Dictionary」として別冊になっている。5年生・6年生通して1冊である。カラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。ワードリストは30ページ(全48ページ)。ワードリストに関連する教科書のページ数が書いてある。ジャンルごとに二次元コード(発音)がついている。</li> <li>・1ページの中に活動量が多い。例えば、6年のP.10、11のEnjoy communicationでは、「聞く・読む・書く・やり取り」のすべての要素が活動として入っている。</li> <li>・各単元末のOver the Horizonで、外国の文化や生活について知った後、その異文化や習慣について、自分の思いや考えを書く形式になっている。</li> <li>・書く量が多い。英語と日本語両方で書き表す活動もある。</li> <li>・4線ノートの幅は書きやすい大きさである。</li> <li>・児童用カードの枚数が少ない。</li> <li>・ゴールの活動での長文のページでもなぞる支援がない所がある。</li> <li>・どの教科との結び付きがあるか分からない。</li> </ul> |
| 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5・6学年の教科書ともに、教科書の最後にCAN-DOリストがCAN-DOチェックとして単元ごとの表で示されている。4技能ごとに「分かる」「使える」の視点で、3段階チェックになっている。色をぬり、コメントを書くようになっている。</li> <li>・4線ノートの幅は書きやすい大きさである。4線上の書き出しには英語が示されており、児童がなぞることができるような工夫がされている。</li> <li>・電子教材(デジタル教科書)に、児童がカードを動かしてできるビンゴカードがあり、楽しみながら単語に親しむことができる。</li> <li>・ワードリストが「Word Book」として別冊になっている。各学年1冊ずつある。カラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。</li> <li>・児童用カードの枚数が少ない。</li> <li>・日本語による説明や、絵や写真などの情報が多すぎる。</li> </ul>  |
| 三省堂 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CAN-DO リストが別冊の「My Dictionary」の終わりに示されている。4技能5領域に分けて、各学年各単元で分かれている。できたらチェックするようになっている。第5・6学年の教科書の最後に「英語でこんなことができた!」として、表で示されている。単元ごとに3段階で○をするようになっている。</li> <li>・Hop の導入で言語活動への見通しをもち、Step で何度も言語活動を繰り返すなど、やり取りの活動が充実している。</li> <li>・やり取りをする活動の必然性が弱い。</li> <li>・「～を伝えよう」という活動で、会話の具体例がないので難しい。</li> <li>・4線ノートの幅は大きく青い線はくっきりして見やすい。また、4線上には書き出しの英語をなぞることができるように薄い字が示されており、児童の学びを支援する工夫が全体にわたってされている。</li> <li>・児童用カードに4線がない。</li> </ul>   |

|            |  |
|------------|--|
| <p>教出</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動のつながりに無理がなく、学ぶ側も教える側も分かりやすい。</li> <li>・第5・6学年それぞれの教科書ともに、ワードリストが「My Word Bank」として巻末にカラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。</li> <li>・単元の始めに見たり聞いたりする活動があり、全体にわたって絵や写真が多く取り入れられ、苦手な児童も抵抗なくスムーズに学習に入る工夫が見られる。</li> <li>・4線ノートの幅は大きく青い線はくっきりして見やすい。ゴールの活動以外の4線上には全体にわたって、薄く英語が示されていて児童が正確に文字を書けるなど、学びやすい支援がされている。</li> <li>・やり取りの活動で使う表現の例が記されているので、学びやすい。</li> <li>・巻末に全単元のFinal Activityで活用するシートがついているシートがあり、それらを組み合わせてMy Bookを作ることになっている。</li> <li>・第5・6学年の教科書ともに、CAN-DOリストは示されていない。</li> <li>・他教科とのつながりは明記されていない。</li> </ul> |
| <p>光村</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5・6学年の教科書ともに教科書の最初にCAN-DOリストが示されている。4技能5領域に分けてある。4段階でチェックするようになっている。</li> <li>・CAN-DOリストは単元ごとにチェックができない。単元ごとの目標として示されていないので使いにくい。</li> <li>・ワードリストが「Picture Dictionary」として別冊になっている。各学年1冊ずつある。カラーのイラストや写真とともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。</li> <li>・各学年の巻末にAll About Meという各単元で学んだことを書きためる活動ができる。</li> <li>・4線上の書き出しや途中で、なぞることができるように薄い字で英語が書かれていたり、「HeかSheで書き始めよう。」という助言などが書かれていたりしてあり、全体にわたって児童の個々の学びを支援する工夫がされている。</li> <li>・児童のやり取りにおける反応例（プラスワン）が示してある。</li> <li>・児童用カードの裏の名前を書く枠に4線がない。</li> </ul>                             |
| <p>啓林館</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元末のDid you know?（半ページ）で、外国の文化や生活を紹介しているが、量は少ない。Did you know? プラスは、クイズからSDGsへつなげ文化や取組を紹介している。</li> <li>・電子教材に、カードを動かして自分で例文を作ることができる教材がある。また、一人で学べる「単語クイズ」の教材がある。</li> <li>・第5・6学年それぞれの教科書ともにワードリストが「Word List」として巻末にカラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。</li> <li>・Word Listには第3線のみ表示があり、単語が4線上に書かれていない。</li> <li>・振り返りを記述する欄や枠がない。</li> <li>・ゴールの活動での長文のページでもなぞる支援がない所がある。</li> <li>・他教科とのつながりは明記されていない。</li> </ul>  |

小 学 校 道 徳

| 発者 | 意 見  |
|----|--|
| 東書 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「考えよう」に中心発問 (◎) と自己の生き方について考える問い (○) が設定されている。</li> <li>・「つながる・広がる」で体験的な学習やワークショップ形式の学習を促している。さらに特設のページで具体的な活動を示してある。</li> <li>・「お母さんの請求書」で、文末で考えさせ深める終わり方をしている。</li> <li>・情報モラルでは子供の身近な差別を扱っており考えやすい。</li> <li>・それぞれにあった挿絵や写真で、大きさも工夫してある。</li> <li>・考えるためのツールが最後に載っている。</li> </ul> <p>【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知らぬふりをしているお母さんの横顔を見たよし子は、どんなことを考えたのでしょうか」は中心発問として書かれているが、他の基本発問が書かれていない。</li> <li>・思考ツールの意味や使い方の説明が必要である。</li> <li>・多角的に考え、議論させるためには、補助発問の工夫が必要である。</li> <li>・全教材文について記述できるノートがなく自分の考えを書く欄が少ない。</li> </ul>  |
| 教出 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャラクターが導入部分で児童に考えさせたい価値について問いかけたり、最後に確認したりして意識できるようにしている。</li> <li>・問題を解決しようの教材が6年で2本（友情、節度）、4年で4本（いじめ、規則、友情、家族愛）あり、学び方の手引きに沿って考えることが示してあり分かりやすい。</li> <li>・「やってみよう」役割演技を紹介する教材が6年に3本（責任、思いやり、協力）4年に4本（断り方、友情、親切、正直）ある。目次にも「たいけん」と表示があって分かりやすい。</li> <li>・いじめの項目では終わり方が考える形で終わっており、発展性がある。</li> <li>・ユニバーサルデザイン使用</li> <li>・全教材文に「マナビー」の吹き出しがある。ペアトークに入りやすい。</li> </ul> <p>【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題を解決しよう」に設定されているが、この教材に設定した意図が伝わりにくい。</li> <li>・考えさせたい道徳的価値と教材の主題名がずれている。</li> <li>・振り返り「しっかり考えられた」「新しく気付いたこと」「大切にしたいこと」のマークの付け方が安易になりやすい。</li> <li>・全教材文について記述できるノートがなく自分の考えを書く欄が少ない。</li> </ul> |
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値に迫るための中心的発問や、日々の生活に結びつけたり解決したりするための発問で構成されている。</li> </ul> <p>【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんな気持ちよくすごすためには、どんなことが大切なのでしょう」では、きまりや約束を超えた部分を考えさせることができ、価値の理解が深まる。</li> <li>・「考えるヒント」で5つの学び方（役割演技、意見交流、聞き合い、思考ツール、話し合い）を紹介している。付録には、思考ツールや対話の仕方が詳しく紹介されており、授業の中で活用しやすい。</li> <li>・題名の下にキャラクターの吹き出しがあり道徳の学習をする前の自分の考えがよくわかる。（学習後と比較できる。）</li> <li>・いじめの心の揺れ動きや行動が理解しやすい。</li> <li>・学びの道具箱のページで対話の方法について「マグネット対話」を提案している。</li> <li>・学び方の手引きは、1つ目の教材の下段に示してあるので分かりにくい。この教材については、手引きの吹き出しの内容が考えを狭めたり誘導したりする心配がある。</li> </ul>  |



|    |   |
|----|---|
| 光村 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次元コードは音声のみ再生できる。ノートや心情円など様々な活用できると良い。</li> <li>・ユニバーサルデザインは目次と吹き出しのみ。</li> <li>・全教材文について記述できる学習ノートがなく自分の考えを書く欄が少ない。</li> </ul>   |
| 日文 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の後の「考えてみよう」で、教材文の内容に関する発問を投げかけ、「見つめよう生かそう」で、自分を振り返る発問を記している。</li> <li>・考えをぐっと深めるためのページが5本、実際の活動をさせて考えさせる教材2本、体験につながる教材が2本ある。それらのうち、2本で役割演技を取り入れ、規則の尊重と正直について考えさせている。</li> <li>・問題解決的学習を2本設定し、規則の尊重といじめ防止を取り上げている。</li> <li>・いじめの4階層では、さらに助ける大人が描かれているのが良い。</li> <li>・身近な生活の中から道徳を見つけるきっかけになるページがある。(日常生活との結びつきがよい。)</li> <li>・すべての単元に二次元コードの資料がついている。朗読やワークシートの他、クイズや相談窓口の電話番号など、内容も多岐にわたっており充実している。</li> <li>・ユニバーサルデザインのフォントとカラーを採用している。</li> <li>・全教材文について記述できる道徳ノートがあり、自分の考えを書くことができる。発問が固定されておらず、指導者が自由に設定できるよう改善が図られている。絵や図を書き込めるように工夫されている。</li> </ul> <p>【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「よし子は、自分のしたことについて、どのように考えはじめたのだろう」は中心発問として書かれているが、他の基本発問が書かれていない。</li> <li>・「いじめ防止」の教材が最後のあたりにある。(1学期初めに扱いたい。)</li> </ul> |
| 学研 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳的価値について多面的・多角的に考えられる特設ページとして「心のパスポート」が多く設定してある。目次にも記載され、話題を広げる資料や話し合い、役割演技(友情)を紹介している。</li> <li>・二次元コードを読み取ると追加で文章に載っていない写真や動画を見ることができ深められ広げられる。</li> <li>・「命を見つめて」(6年)の教材では同世代の子のメッセージがよく伝わってくる内容である。</li> <li>・見開き全面的写真やイラスト、登場人物の表情のアップなどイラストや写真の使い方にインパクトがある。</li> <li>・意図的な話し合いを促す教材が6本ある。(4年)</li> <li>・吹き出し(セリフ)を用いている単元が多く、低学年にはよいが、高学年は登場人物の気持ちが限定され過ぎてしまう懸念がある。</li> <li>・第1学年の初めから文字が多い。</li> <li>・その時間に考える道徳的価値についての記述や主題名がなく分かりにくい。(巻末のみに記載)</li> </ul> <p>【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「バスの中でお母さんの横顔を見ていたよし子さんは、どんなことを考えていたのだろう」は中心発問として書かれているが、他の基本発問が書かれていない。</li> <li>・題材末の「考えよう」では、わかりやすいが、深めさせるために補助的な発問が必要である。</li> <li>・全教材文について記述できるノートがなく自分の考えを書く欄が少ない。</li> </ul>                                |

- ・視点が異なる発問が書かれており、多面的・多角的に考えるヒントとして活用できる。
  - ・学び方の手引きに（見つけよう→考えよう→広げよう・つなげよう→まとめよう・ふりかえろう）授業での学び方や授業が終わってからの学び方など、学習過程のスパイラルが分かりやすく示してある。
  - ・思考ツールの活用法や体験学習の進め方、話合いの仕方、ノートの作り方について1ページずつ使って詳しく説明してある。
  - ・思考ツールなど、考えるための方法が示してあり参考になる。
  - ・巻末に「学びの足あと」のページがあり、授業記録をつけられるようになっている。心の矢印で学習による変化をわかりやすく示す工夫がある。
- 【第4学年「雨のバスでいりゅう所で」より】
- ・「バスの中で、お母さんはなぜ、よし子さんに見られてもだまっていたのだろう」は、中心発問を深めることにつながりにくい。
  - ・問題解決学習の設定は1本である。
  - ・目次や分類分けでは、さわやかな色合いだが少しごちゃごちゃ感もある。
  - ・第1学年の初めから文字が多い。
  - ・全教材文について記述できるノートがなく自分の考えを書く欄が少ない。



